

令和5年度 第4回貝塚市立公民館運営審議会 会議録

令和6年2月19日（月）午後2時30分～  
貝塚市立中央公民館 講座室3

出席委員：萩原委員長 井谷副委員長 中村委員 西田委員 黒井委員 高山委員  
井上委員

欠席委員：大畠委員 葛山委員

事務局：檜崎教育部長 甲斐中央公民館長 小西浜手地区公民館長  
井川山手地区公民館長 上野中央公民館館長補佐 山田中央公民館主査

中央公民館長：ただ今から、令和5年度第4回貝塚市立公民館運営審議会を開会いたします。

本日は時間の関係上審議会の根拠等の説明は省略させていただきます。

では、本日の配布資料の確認をさせていただきます。なお、本日の資料につきましては事前送付しているものを持参していただくようご依頼申し上げます。

事前送付しました資料は、「令和5年度第3回貝塚市立公民館運営審議会会議録（案）」、3館の令和6年度事業予定表（4月～6月）、審議資料「活躍する社会教育士」、審議資料「基調講演 公民館活動を通じた人づくり」の4点でございます。

また、当日配布資料として、貝塚公民館歴史年表、中央公民館クラブ協議会加入クラブ継続年数調べ、中央公民館の事業関係書面3部、及び山手地区公民館の事業関係書面2部をお配りしておりますのでご確認ねがいます。年表と継続年数調べは後ほど使用いたします。

諸般の報告ですが、現在、委員は9名となっています。9名の委員中、6名と過半数以上の出席となっていますので、審議会規則第3条第2項により審議会は成立しております。

なお、大畠委員は体調不良のため本日欠席となっています。

また、井上委員、西田委員につきましては、この後、別の会議に出席予定があるため、3時15分で途中退席されます。

本日の議事・案件の進行については、審議会規則第3条第1項により、委員長が議長となりますので、萩原委員長に会議の進行をお願いいたします。

では、萩原委員長、よろしくお願いいたします。

●案件1 諮問について

委員長：皆さん改めましてこんにちは。本日は審議会の諮問事項についてということで私の挨拶は割愛して進行させていただきます。

では、案件1「諮問について」ということで事務局から説明願います。

中央公民館長：案件1についてご説明いたします。

10月の第2回審議会での研修、及びグループトークで委員の皆さまから出された意見を踏まえ、前回の審議会で、「貝塚市の公民館活動の再評価について」と「貝塚市の公民館活動の新たなあり方について」の2点を諮問いたしました。

今回は、まず1点目の公民館活動の再評価、いいところの発見ということで、事前に配布しました和歌山大学の村田和子先生の講演資料と中央公民館職員 中川知子さんのインタビュー記事、本日配布しました「貝塚公民館歴史年表」「中央公民館クラブ協議会加入クラブの継続年数調べ」を手掛かりにしながら、「貝塚の公民館のいいところ」をグループトークで出し合っていただければと思います。

班分けと時間については、事務局より説明します。

事務局：班分けにつきましては、A班としまして、萩原委員長、中村委員、井上委員、大畠委員、甲斐館長、井川館長、山田となり、このまま講座室3に残っていただきます。B班としまして、井谷副委員長、西田委員、黒井委員、高山委員、小西館長、上野となり、和室に移動していただきます

各部屋に分かれてグループトークを行っていただき、終了後3時15分を目途に講座室3に戻ってきていただきます。

その後、グループトークの内容について、それぞれの班から簡単にご報告いただき、萩原委員長に各班の報告についてまとめていただきます。

その後の審議につきましてはこちらの講座室3で執り行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

## **A班**

中央公民館長：今回はクラブ協議会の加入年数調べというところで30年以上活動が続けられているところを挙げていますが、一番長いところで茶道部（現在休部中で人数も3人と少ないが）が昭和37年から62年続いています。大畠委員の所属されているガラタクラブも昭和46年から50年以上続いています。昨日もコンサートをしていて、人数もたくさん来ていました。

その他、50年以上続いているクラブというところでは、オニオンキャビンも青年活動がきっかけで結成され、そこから50年以上続いています。概ね30年以上続いているクラブが18クラブほどあります。

委員長：30年以上続いていくというのは、途中で代替わりというのがあったと思いますが、継続がうまくいっている理由、どうやって続けてこられたのかを少し聞いてみても参考になるのではないかと思います。

そこに公民館の職員のかかわりがあったのか、とか、継続的に公民館で講座をされていてその講座の卒業生がずっと継続して入ってきているのか、などですね。

中央公民館長：確かにクラブや子育てネットワークの会、ファミリー劇場等子育て支援の団体は代替わりしながら続いてきているので、そういったところから聞くのもいいと思います。

委員長：継続できるパワーはどこにあるのか、ぜひ聞いてみたい。

事務局：共催的な活動はあると思います。ファミリーもネットもバンド連も文化事業と位置付けて、公民館と共催というところで支援しているのは大きいと思います。

委員長：公民館が支援をずっと続けられたというところが大きいと思います。  
ガラクタクラブとか陶芸とかも継続的な支援があるのでしょうか。

中央公民館長：ここに書いているのはクラブ協議会の加盟クラブですので、個々のクラブについては共催事業という形では支援していません。ガラクタ、オニオンキャビン  
は軽音楽連盟として共催事業の形で支援しています。

事務局：公民館まつりで実行委員会に入っていただく他、単独で相談に乗ったりしています。

委員長：自分のところの展示会など形に見えない支援もあると思うんです。困ったときに気軽に相談できる職員がいるとか、公民館に長いこと主事で勤めている人は顔が見えるので、相談に来やすいとか、インタビューするとそういうのがでてくると思います。「継続して館で働く職員がいることは大切」という話も出てくるかもしれない。  
クラブいくつかピックアップして継続している理由をきいてみるのも良いかもしれない。

中央公民館長：次回以降検討します。

委員長：仰々しい感じではなく、気軽な感じであればいいかと思う。クラブの継続に公民館が支えになっているとみなさんおっしゃったので、それが一つの材料になると思います。

事務局：こういった団体は職員と近い。任せやすいし、言いやすい。

委員長：近さは必要かもしれませんね。一つの鍵かなと思います。

歴史年表にまとめていただいているように、公民館が主催して課題に対応した講座をしてきました。婦人学級から地域の課題を見据えてそれに直接関わる講座とか、イベントとかをつくってきた、そこも貝塚の特徴だと思います。それは村田先生も講演の中で触れていたと思います。

中央公民館長：その時代に応じて課題をとらえてやってきたと思います。歴史を調べていて、貝塚の公民館で貫いてきたことのなかに、「人権」をとらえていくことを軸としていたということがあります。「権利」、特に「学びは権利なんだ」、ということ

職員の中では共通理解しています。

権利としての学び、という認識はずっと貫いています。例えば初期の頃に貝塚女子高等学院を公民館の中に作っていた。時代背景として、地場産業、紡績が栄えていて、工員の学びの場がいるのではないかと、公民館が課題として受け止めた所から始まっています。そのあとも続けて、障がい者の学びの場、子育て世代の学びの場をどう保証するかにつながり、今も続いている。そこは貝塚ならではの歴史だと感じます。

委員長：そういう基本的な考え方に立たないと、学習できない状況にある人に目を向けるということにならない。来てくれる人を相手に事業しがちだが、公民館に来れない人、学習しようとしてもきっかけが無いという人に目を向けていくということが大事で、それを最初から持っていたということだと思います。

事務局：少なくとも自分が公民館にいる8年間でもそうだし、ホッとワークも識字学級から派生してると聞いています。

委員：ホッとワークは昭和50年代に講座からはじまったと思います。

事務局：今でも貝塚公民館の講座事業について聞きにきた市もある。自分が公民館に来た時からあって、先人が作り上げてきた講座だが、そこにも至っていない市もあると思いました。

委員：ここで活動している人の権利意識について、クラブ協議会が利用する部屋が有料化された。その時に、利用している人は反発し、抗議した。元には戻らなかったけれど、お金いるならやめようか、ではなく、維持しようと踏ん張ったエネルギーがクラブの活動を維持している力だと思う。そういう活動の大切さを理解していることが大事だと思います。

中央公民館長：子育ての活動にしても、中央公民館がここに移る時に、子育ての活動をしている人が、こういう保育室がほしい、という活動をしました。公民館のつくり一つにしても利用者が主体的に作ってきた、そういう主体性というのもやはり大きかったと思います。

委員長：その時代から利用者のニーズを聞いて施設について考えていくというのは先進的だったんじゃないかなと思います。他のところでは聞くといってもアンケート的なものぐらいではないでしょうか。

おそらく子育てネットの方などかなり意見も出されたでしょうし、そういうことをそこまでやれる力を持っていたし、それを聞くという姿勢が公民館にあったということが非常に大きいと思います。

中央公民館長：ある意味、公民館の職員だけではなく、利用者も貝塚の公民館を自分たちが作ってきたという自負があるのではないのでしょうか。

委員：長い間続いているというのはリーダーになっている人の牽引力、指導力というのではなく、みんなに信頼されてまとめていくことができるという人がいることがあると思います。それがうまくいかないクラブはいつの間にか消滅していく。

それはそこで学んでいる学習という価値だけでなく、人間の連帯感、相互の信頼感、助け合いがうまくいかなかったら、続かない。そこは、職員もある程度助言をしていく必要があるのではないのでしょうか。

委員長：その点が貝塚の特色だと焦点が絞れてきたようです。年表を見ると、移転してから以降の動きが少ない。1993年に建て替えられて、それまでは活発にされていることに比べたら若干薄らいでいるのは否めないと感じます。

委員：その点は私が思うに、職員の異動が激しすぎるということがあると思う。館長についても何人変わっているか。やはり、じっくりと取り組めない。行政側の人事の考え方もあるかと思います。

中央公民館長：職員は4年ぐらいで異動になる。昔は長い館長もおられました。名物館長さんという人は長く公民館に携わっていました。今は、名物というところまではならないです。私も3年で多少わかってきたかな、というところですね。

委員長：特に公民館というところはいろんな人とつながりができてからだから、長いスパンで人事を見てほしいということは諮問に対して答えてもいいかもしれない。

中央公民館長：人とのつながりがベースになるので、なかなか3年、4年で利用者とそこまで関係を作れるか、といったら講座をしていたら別ですが、館長は講座を担当しないので、そこまではなかなか難しいと思います。

委員長：主事さんも昔は専門職採用されていましたね。

中央公民館長：専門職採用については、今も制度としてはありますが、形だけのものになっている。村田さんの資料に詳しく書いてあります。

委員長：そこに戻してほしいとは言わないが、人事スパンにもう少し配慮が欲しい。普通の職場と同じように3年、4年という短いものでなく、もう少し長いスパンでないと活性化しにくい。

委員：住民側も変わられたら困ります。生涯教育には一貫性が必要だと思います。

中央公民館長：公民館を支えているのは、会計年度任用職員です。職員より、どちらかというと会計年度任用職員の方が、ここ最近の公民館を作ってきたという感じがします。どうしても利用者との付き合いも長く、いろんなことをよく知っているのです。

委員長：本来の趣旨からいえば、公民館の中にも長い人がいて、全員とは言わないが、それなりに継続性を役所が保障することは必要です。会計年度任用職員といったら基本的にどうなるかわからない、そうではなく保証するということが住民側にとってもプラスになると思いますが、今の行政だとなかなか厳しい。行政全般に異動が多い。アメリカや欧米に行ったら、そこの部署に根が生えた人がいるようですが、日本はスペシャリストを育てていないと感じます。

中央公民館長：社会教育主事もそうだが、専門性が本庁の職員からは理解されにくいところもある。私も逆の立場の時はそういう認識だった。

委員：顔見知りという段階ではだめで、公民館に来る市民の人柄というのを職員も理解していく。住民側もサポートする職員を理解しないと、本当に必要な生涯教育ができないと思います。そういう意味で職員は固定してもらいたい。福祉部局でも長く関わる職員もいます。

中央公民館長：福祉に限らず、そういう職員もいないことはない。ただし一般事務の職員で長いこといるという人はごく一部です。

委員長：社会教育主事・社会教育士が専門職だということを位置付けてもらわないとだめですね。

中央公民館長：そこをどう理解してもらえるかということが壁になる。

委員長：資格を持っている人の専門性が高いので、その人のところに相談に行く、とそういうのはあると思います。そういう実態があったら、長く続いているクラブでも、窓口になっているのはそういう方で、そのサポートがあるから、長く続けられているということがはっきりと見えてきたら、そういう職員を継続的に公民館で配置すべきです。一旦そういう関係ができたら、むやみやたらに動かさず、継続性に配慮して次の人を育ててから異動させるという風にしてほしい、その辺りを訴えていけたらと思います。

中央公民館長：主事もそうだが、社会教育の必要性というところが本庁の職員からどれだけ理解されているのか。まずはそこかもしれないです。

公民館大会で、牧野先生の話で、「行政施策を進める上で社会教育、学びは根底にある」というところを本庁の職員に理解されているかというとしんどいところがあります。

委員：お二人の話の中で社会教育、生涯学習の必要性を話されていたが、公民館というものの存在意義というものがどこにあるのか、生涯教育の必要性と公民館の存在価値は別に考えないといけないと思います。公民館を無くした市の生涯教育がどのようなになっているのか、公民館が無くても公民館的な活動ができているのか、先生たちはそこをどうとらえているのかと思っています。

委員長：まちづくりを進める、都市計画をするとしても、住民に説明して、学んでもらわないと、行政施策を進めていけないです。全てのところに社会教育的なものが及んでいるのは確かにその通りです。その中で、公民館があり続けていく必要性はどこにあるのか。そこは説明しないと、「他で社会教育活動をしているから、あえて公民館はいらない」となってしまう。その強さがでてきたら「公民館はある」となってくる。

枚方のように公民館をなくしたら、コミュニティセンターでやる方がいろんな人が来やすい、たくさんの方が利用できる。公民館だと使いづらいから公民館にしない方がいい、というのが公民館を別の名前に変えるときの理屈になっているようです。それではまずい。公民館の存在意義を高めることを考えていかないといけません。

貝塚の場合は、継続的にいろんな事業をしてきた強みがあるから、そういう活動が生まれ続けてきた、そこはしっかりアピールしていかないといけないですね。

「安心して老いる会」、「障がい者の料理教室」、「つるかめ大学」等先進的にやってきた。それがあるから、今の貝塚のいろんな人たちの学びが起こっている。でも外から見ていたら誰がどう作ってきたかわからない。歴史に書かれているような存在をしっかりと描くべきです。

委員：貝塚では生涯教育＝公民館という形がある。他のところ（部署）で、社会教育を活発にやりうる環境があるところはない。貝塚では公民館が頼られている、公民館が頑張らないとという状況だと思います。小学校区や町会という単位が生涯教育をやれているかというのできていないですね。

委員長：学習する権利を根底においてきたというのが大きいかもしれません。

中央公民館長：そういうことが歴史の中で貫かれているというのが年表からもわかります。

## **B班**

事務局：先ほど中央公民館長から説明がありましたが、資料を事前に読んでいただいているかと思いますので、その資料を基に、貝塚公民館の良さ、強みというものについてどのように考えられるのかということを皆さんでお話していただきたいと思います。

講座室3に戻ってきたときに、どんなことが話し合われたかを報告いただかないといけないんですが、副委員長にお願いしたいと思います。

では皆様、資料の方を読んで感想も含めて、これまでの公民館の強みというものが  
どういうものか、お話いただけたらと思います。

副委員長：私は貝塚子育てネットワークの会で活動していましたので、親子で集える  
場というところがこの公民館にあると貝塚に来てから知りました。貝塚子育てネット  
ワークの会ではただ親子で来るだけ、遊ぶだけではなくて、そこには 学びがある  
ということを知りました。

学びとは何かというところは、人の話を聞くとか、自分の意見を言うとかできる場  
があるというところかなと思います。

小学校や幼稚園の PTA とかというところに関わるようになると、流れの中で自分の  
意見を言うということまではなかなかできないようなことも、ここに来たら自分を知  
ってもらえるというか、他の人も一緒に子育てをするという、子育て仲間、公民館仲  
間ができたところがいいところかなと思います。

公民館職員の中川さんや村田先生もお話ししてくださっていますが、他ではない公  
民館に来ないとわからない良さっていうのがここにあるっていうところを、集ってい  
る人だけじゃなく、今度は地域に出て、知らない人にも伝えるというのが私の中では  
課題なんですけど、どう人を巻き込んで公民館の良さを知ってもらおうかが必要だと思  
います。

ただクラブの活動をするだけではないっていうところ、例えば公民館まつりとか赤  
ちゃんから年配の方まで一緒に、何か一つを作り上げるというところ、職員さんだけ  
じゃなく、関わるクラブの方たちと一緒に作り上げるところがあるっていうのが、貝  
塚の公民館 3 館それぞれ 公民館まつりというのがあるので、そこが魅力のひとつだ  
と思います。

委員：最近リモートとかそういうのがだいぶ増えてきてるんですね。それで浜手地区公  
民館の「ふれあいまつり」など、わざわざ現場に行かなくても山手や中央でも見るこ  
とができるというふうに、そういうことが活発化されていけば良いなと思います

それとあとは クラブの交流会もなんか最近ちょっと活発化しているので、もっと  
広げていったらいいとは思っています。

委員：資料を見て、中央公民館開館当初から必要に迫られて市民が活発にやっていたん  
だなという印象です。

自分は仕事もしていたので、公民館活動はしていなくて、子どもはバトントワリン  
グなどずっとやっていたので、この辺には来てましたけど、これまで全く関わってい  
ませんでした。

しかし、2月4日の、公民館大会に行くと、すごいなと思いました。まだまだ貝塚  
市民の場合は、公民館を必要にしているなという雰囲気でした。

スタッフもたくさんの方が協力して盛大に行われていたので、やっぱり公民館良い  
ところあるのだと思いました。

それで最近僕の友達と「公民館運営審議委員になってこれからの公民館のことを考



えなあかんねん」と話していたら、実は友達が「公民館で知り合った人と結婚した。公民館はすごいと思う」というような話を聞いて、そういう人も市民にはいるのだからやっぱり続けていかないとあかんと思いました。

公民館に参加するのは上下隔てなく、誰でもオープンな感じでできるのが良いと思います。その友達とも何気なしに行ってたまたま会って話ができた。この間も中央小学校でも何かの話の折にそんな話になりました。

この年表を見ると、昭和 28 年からブランクの年がなくてすごいなと、クラブ活動など公民館活動も続いていて、絶対市民が必要としていると思うので、なくすわけにいかんと思います。

委員：まず、良いところというのは中央公民館のみならず、山手地区公民館や浜手地区公民館もあるところなのかなと思います。

特に浜手地区公民館は確か平成元年に二色パークタウンがまち開きされて、そのときに公民館がオープンされたと思うんですが、やはり新しい街でいろんな知らない人同士が住んでいる中で、そういった交流の場を設けられたということが一つ良いところだと思います。

3 館ともいろんなサークルだとかクラブ活動をされておられると思うんですが、実は商工会議所としても公民館で活動されている方々をお願いをしている例がございます。特に山手地区公民館で津軽三味線のクラブがありますが、そこをお願いして毎年商工会議所の新年互例会のときに演奏しに来ていただいています。またハーブとかフルートをやっている方々にも、会議所の女性会の周年事業のときに来て演奏していただいています。

そうすると来られた方には生で津軽三味線の演奏が楽しめるということにもなりますし、サークルやクラブの方々もそういった披露する場があるということで、練習にも熱が入るといえるのか、なお一層公民館を利用して練習を重ねるということにも繋がっているなと思いました。

我々としても本当はプロを呼ぶと結構な費用もかかるところを、本当に交通費程度で来ていただいているわけでございますけど、そういったところで実は公民館の利用者の方と繋がっているという現状がございます。

ですから今山手、中央、浜手とサークル、クラブが活発にされているなという印象があるので、こういったこともやはり続けていくのが公民館の良さかなと感じております。

それと歴史年表にもありますように、つるかめ大学を開設されたり、いろいろ活動されたりしていますが、この間グループワークのときにお話していて、今 Wi-Fi 環境もできたということから、高齢者向けのスマホを使った講座なんていうのも、今後できてくるのかなと思います。時代時代でいろんなものが変わってきますので、その時代に合ったそういった学習の場を設けるというか、そういう場を提供して続けていただければなと思いました。

本当に今スマホありきで、世の中動こうとしてるような気がして仕方がないんです。この間 16 日から確定申告がスタートしましたが、そこでもスマホでできるのでお

願いますという流れなんです。でもやる方としても大変だしどうしていいかわからない。

そういう時代の流れです。そういうことも勉強会、講習など生涯学習として時代の変化に応じて活用されればと思います。

事務局：皆さんがお話していただいているなかで、私が感じることは、例えばクラブにしても公民館に来ていただいている中で、本当にこのクラブで横の繋がりだったり、公民館を盛り上げていこうと思っていたりするのかなと思います。皆さんに改めて問うたことはないですけど、スポーツセンターやコミュニティセンターみたいに来てる人が大半ではないかと思っています。

本当の横の繋がりで来ているんじゃないなくて、月謝が安いから、民間だとヨガでも月1万かかるところが公民館だと500円でできる、知り合いとは来ていますが、かといって自分のクラブ以外のクラブで繋がろうと思っている人はそんなにいない気がするんです。

子育てとかはちょっと質が違うのですが、体を動かすとか、自分たちのクラブを楽しんでいますけど、クラブ同士で何かしようとか、実は公民館とはこういうところなんだよといっても、月謝払って先生に教えてもらっているだけやという人がほぼ大半を占めてるなという気がしています。

普通に公民館について説明しても、気づきですよ、気づかなければダメなんですよ。その気づかせる努力は相当力がいらいます。

それでも、月1回浜手地区公民館では、利用者連絡会で説明をするんですが、そこには代表者1～2人に来ていただけるのですが、その方も順繰りで来て、話を聞いて終わって帰る。自分たちのクラブにその話を下ろしているかどうか疑問です。自分たちのクラブに、「この前こんな話やってたよ」とほとんどの人が言っていないと思うんですよ。毎年変わる役員は「こんなこと初めて知った」と言います。

私からするとクラブ活動ではなく、月謝払って自分のしたいことをして、「会員の皆さんと協力してやっている」という感覚ではないんですよ。その都度繋がりが大切と説明しますが、そういう人が多いので、それをどう気づかせるか、気づきというものが大切だと思います。

あと、きっかけづくりということで、先ほどおっしゃっていただいたように65歳以下はほとんど公民館に来たことがない。そういう人に来てもらうために、例えば面白い講座をやって、初めて来た人がチラシを見たり、いろんなクラブがあることを知ってもらったりといったことをしないとだめだと思っています。

この前の公民館大会でも「公民館は素晴らしいことをやっている」と知っている人が見に来ています。公民館に関わってる人が来ているので、そんなことはいらないと思うんです。公民館を知らない人を400人集めたら素晴らしいですけど。

公民館を全然知らない人が来るためにどうすればいいのか、理想ではありますが、それをどうやってやっていくか、どう広げるかということを公民館運営審議会の人たちと私達で考えたい。

2年後に公民館運営審議会が答申として決めることは今後施策としてあげていけ

ると思います。そこで1年後にそれを実行していったら、公民館というものがすごいものなんだよということを皆さんに気づいてもらう。今多分100人中2人、3人ぐらい、人口でいうと1割ぐらいしか公民館に来ていないけれど、それを2割にしたいなと思います。

委員：市民にとって公民館がどれだけ必要であるかどうかですよね。必要であるかどうかは、仕事を持って働いている人は仕事のことばかりですが、仕事を終えたとき、広報などを見て「いろいろやっているということを時期があえばやりたいと思わせることですよね。

なかなか大きな結果を出すのは難しい、すぐにそんな期待はできないと思う。必要ない人は公民館に来ない。あと残りの人生をどうするかというときに公民館があるという現状だと思います。

今は生産性がなかったらだめだという世界で、そういうところに訴えるにしても難しいところがあるよね。

事務局：私は歴史年表とか村田先生の講演録とかも読んで、昔から地域の人がすごい、貝塚の人たちはすごく魅力的なんじゃないかなと思っているのです。

職員が動かしてきたわけではなくて市民が動かしてきた公民館というところがあるように思うんですね。

職員は気づきであったりとか、学びであったりとかということを大事にして、サークルやクラブ、文化団体をまとめていった。そういう人との繋がりを大事にしながら、公民館が活動してきたというところは手前勝手かもしれないんですけど、自慢してもいいことなんじゃないかなと私は思っています。

そのところはきちんと大事にしておかないといけないことだし、これからも守っていかないといけないことだと思っています。

ただ、事務局職員が言われたようにやはりまだまだ気づいていない人が市民の中にはたくさんいます。私は福祉部局に在籍していましたが、そこに来ている人たちの中でもこの人公民館に来れば幸せになるんじゃないか、居場所を見つけられるんじゃないかという人がいて、どうすればそのような人に公民館に来てもらうようにするのかというのが今課題なんだと思うんです。

その中で、〇〇委員や〇〇委員が言われたように、Wi-Fi であったりとか、リモートであったりとか、普段公民館に足を運べないような人たちでも公民館を知ってもらえるように努力していけば何か公民館をわかってもらえる手がかりがあるのかなというふうに思ってます。

委員：新しいものを取り入れるようなことね。ただ、やはりこれだけ続いて4日の公民館大会でも実行委員さんとかみんなはつらつとして元気なんです。元気ということはそれだけ公民館がなくなったらだめだということの気持ちが現れていると思います。

いろんなところに行くけど、いやいや実行委員やっているようなところもあります。けれども今回の公民館大会ではみんな元気で、「絶対公民館はなくしたらあかん」と

いう気持ちが出ていました。

だから、あとは存続するためのネタをどんな形で表して、市に言っていくのかというのが難しいなと思っています。

それと公民館大会の牧野先生の話で、公民館の歴史の中で終戦直後にできてパン屋さんがあって、理髪店があって戦後まだ街の中にないものをやったという話がありました。

ただ、今の時代にはパン屋も理髪店もあるからもう公民館必要ないなと一瞬思ったんです。それはそれで、「そういうときがあったよ」と取る人と「もう公民館はいらない」と取る人もいるから、なかなかその良さをみんなにわかってもらうのは難しいなと思います。

また、私物化をしたらあかんと思います。新しい人を増やすとか、そういうこともしていかないと。そこを履き違えて決まったメンバーで、ただ安いからということに重きをおいてしまうのはよくない。

公民館と関係のない人にも気づきを促し、巻き込んで「絶対公民館を残さないといけない」と思ってもらえるようにしないといけない、そこが難しい点ではありますが。

事務局：牧野先生が言ってたのは元々その時代にない、みんなが必要とするんだけど、その時の日本、地域が抱えてる課題というものをいかに解決すべきなのかを考えたときに公民館が必要とされたということなのだと思います。

だから戦後何もない時代に公民館で散髪屋がないから散髪屋、なかなか図書館が建てられないから公民館が図書館の代わりをしましょうよという形で動いていたんだと思います。

昔の貝塚の公民館もそうで、例えば文化団体だったり、貝塚女子高等学院も、繊維業が盛んな時代に女子工員が学べないという課題があったので必要に応じて公民館で学ぶ機会を得るようにしようとか開校したりとか、社会的な地域の課題というものを解決するための場所として公民館というのがあり続けてきて、貝塚の公民館もそれをしっかりやってきたというところがあるかなと思うんです。これはやはり貝塚の公民館の良さだと思っています。

ただ、今の地域の課題は何なのかなと言ったときに、例えばいろんなものができてきて、物的にはとても豊かな時代になってきて、地域に何でもあるような時代になってきてるけれども、そうではなくて、例えばそこに繋がり希薄さ、孤独な人が多いですね。孤独故に誰にも相談できずに苦しんでいる人だったりとか最悪犯罪になってしまったりとかという場合もありますよね。

今、貝塚の抱えてる課題は何なのか、その課題に対して公民館がどう向き合っていくのかということが私は一番大事なかなと思うし、実はそれを貝塚の公民館として昔からやってきているわけですから、やはりそれは続けていくべきなのかなというふうには思ってるんです。

委員　今まで実績はものすごいあるんですよね、それを今後どうするかということですよね。別に公民館がなくてもクリアできるものがいっぱいあるわけですよ。でも公民館

がまだ必要なんだと、そこを答申で出していきたいね。

事務局：皆さんに意見出してもらった中で、いろんな人たちが集まって、繋がって学び合うという土壌というのは歴史的に見ても貝塚の公民館の良さとして位置づけ、それが貝塚の公民館だけではなく、地域にも広がっていくようになっている。公民館に集ってる人たちはとてもパワーのあるすごい人たちが揃っている。ただそれだけではなくて、今後、公民館をもっともっと良くするためには、プラスアルファとしていろんな人たちに知ってもらう機会や、気づきを促すような仕掛け作りというのが必要だというお話だったかなと思います、  
そんな感じでよろしいでしょうか。

委員：〇〇委員がおっしゃられているように、最初散髪屋さんのこととか、女工さんの学校だとかその時代その時代に必要だったものはここ（公民館）でまかなってきた。それは一定の効果を終えたんだけど、公民館の使命が終わったのかといったらそうではなくて、次のその時代時代でまた新たな課題が出てきてるはずなんです。それを公民館でまた新たな場にしていければということですずっと来てると思うんです。

では今は何か課題があるのかという話ですけれども、生涯学習もそうだろうし、また今後そういう活動をしているのを広めるというか見てもらうために、例えば Zoom で配信してみていただくなど活動の報告の場というか、公民館に足を向けなくてもオンラインでちょっとそういう講演を見れるだとか、そういう参加の仕方も今後はできるんじゃないかなと思ったりもします。

時代が変わっても、その時代その時代で何か必要なものは今後あると思うんです。でもやはり公民館というところがあることで、そこを賄っていけるということなのかなと思います。

今はどうなんでしょう、何が必要なんでしょう。

副委員長：地域で今何が必要なのか、地域の課題は何かというところを吸い上げる場所はあるんでしょうか。たとえばしゃべり場のような。

委員：今、子どもが下校するときに公民館に寄るというようなことはされてるんですか。よく図書館に行くとかという話を聞くんですけど、そこで勉強するみたいなことはあるけど。

事務局：中央公民館でも勉強しに来たりとかもありますし、山手地区公民館、浜手地区公民館なんかは地域密着なので。

委員：そういうふうに小学校のときからちょっと公民館に馴染んでらっしゃったら、大きくなってもやはりその公民館の身近さというのは感じたまま大きくなりますよね。

事務局：そうですね。そこはやっぱり違いますね。二色の若い子たちは昔よく遊んだよ

と言いますし、この前家の鍵が閉まっていて、鍵持ってなくて中に入られなかった高校生の子がどうしようかなと思って公民館に来ました。「鍵がないから、ちょっとここで3時間ぐらいおらして」と言ってきました。

昔遊んでいたからといって、コーヒー飲んだりして3時間ずっといました。

委員：駆け込み寺になってるんですね。

事務局：それはちょっと感動しましたね。

委員：鍵を忘れて困ったときに駆け込むということは、昔地域にないものは公民館でやってあげたということといっしょやね。今必要なことは何があるかやね。

副委員長：安心できるとか信頼できる大人や誰か職員さんとかに聞けるとかできる場ができるといいですが、なかなかもう今子どもたちが減ってきて、子どものクラブやクラブ団体が本当に少なくなっている現状があるので、それを一緒に皆さんで考えていけたらいいと思います。

委員：今度小学校の「まちなか探検」で連れて行くけれど、事前に顔合わせしたときに、ある子どもが「両親が働いてるから、学校終わって家帰るまでの間に勉強する場がこの中央校区にあるんですか」と聞いてきました。

みんな家に帰っても1人で勉強するよりも友達みんなで勉強できるような場がその地区であつたらいいなという話はその時にしましたけど。

事務局：二色地区では学校の帰りに公民館で宿題をやって帰ります。

事務局：何か駆け込み寺みたいな、居場所というところをキーワードにしていけばいいのかなというところでしょうか。

## まとめ

委員長：では、グループトークお疲れさまでした。それぞれのグループトークについて内容をお話いただければと思います。

A班は私の方から報告します。A班の方は、私と井上委員と途中で退席されましたが中村委員と甲斐館長、井川館長、山田主査で話しました。

今日の資料で、中央公民館クラブ協議会加入年数の30年以上のクラブについて話題になりました。18のクラブが30年以上今でも継続しているのはすごいということで、そのクラブにざっくばらんにどうして継続できてきているのか、上手く代替わりができていくコツとかを聞いてもいいかなという話がでました。

その中で公民館からの支援が非常に有効だった。例えば、共催事業とか、単独のクラブでなくてもいくつかのクラブと一緒にあったところに任せて支援することによって、ずっと支えられてきたという話になりました。

あるいは公民館の職員と顔の見える関係性がある、利用者との関係がうまくいって、ちょっと困りごとがあったら相談できるとか、あるいは公民館の方からも頼みたいことがあれば気軽に頼めるという関係ができているのが大きいのではないかという話になりました。今後、何かそういう関係性が継続できている理由についてちょっと聞いてみてもいいかな、と思います。

それから、歴史年表でも、地域のいろんな課題についてその時々状況に応じて、直接的に講座をされたりイベントをされたりしてきたというのはすごいこと、ここからいろんな活動が生まれている。

なぜこれほどの講座が生まれたのか。その一番の原点になっているのは、学ぶことの権利をしっかりとベースに置いていること、学習権ですね。学ぶ権利としての公民館だと思います。だから初期のころから婦人学級あるいは、前回も映画で見た貝塚女子高等学院というのも公民館につくる、ということになっていく。それが今まで脈々と受け継がれている。子育てネットワークの会などいろんな活動も、そこでできあがってきた。

公民館こそが生涯教育の一番厳しい状況にある人たちを支えるような権利としての学習というのを支えてきたのではないか。それが一番大きいのではないか、という話です。

その中で一つ年表を見てみると、1993年の中央公民館の移転以降あまり事業化されているものがない。やはり少し弱ってきているんじゃないかと話題になりました。

それまでの公民館がやってきたことは、公民館職員と利用者との顔の見える関係性が大きいのではないか、やはり公民館の職員というのは、人事異動のペースを他と同じようにされると困るのではないか。10年以上とか、長い方がいる、それが住民にとってもプラスだし、いろんな活動にとっても継続できるベースになるのではないか。職員の人事異動についても考える必要があるのでは、という話になりました。

それではB班、お願いします。

副委員長：B班の方では、公民館大会のお話がありました。公民館大会実行委員のメンバーがとても元気で、公民館が必要な場所なんじゃないか、ということが感じられる大会だったという風に話しておられました。

しかし、公民館大会に集っている人たちは、公民館が好き、活動の場所としてきている方たちが来ていて、本当に知らない人に伝えられているか、というところが課題というお話もありました。たくさんの方が大会に来られた一方、公民館を必要としている方がまだたくさんいらっしゃるということなんじゃないかということですね。

公民館は小さい赤ちゃんから年配の方まで幅広く来られる場所で、そこには学びがあったり、いろんな気づきがあったりするところも貝塚公民館の良さだと思います。

貝塚子育てネットワークの会も30年を超えて続いておりますし、いろんなクラブについても長年続いて歴史もすごくあるというところが、貝塚公民館が誇れるところなんじゃないかという話がありました。公民館を知らない人にも知ってもらうきっかけとか、公民館を利用しているけれども公民館のことをあまり知らなくて習い事のよ

うな形で、来てくださっている方にも、どう公民館を知ってもらうか、気づいてもらう、気づかせることができるかというところが、これからの課題じゃないかという話がありました。

今の地域の課題が何かというところ、地域の課題に向き合うというのが貝塚公民館、というところがあったから長年続いてきたんじゃないかという話がありました。

Wi-Fi 環境が整ったことで、これからも公民館の場所に来なきゃいけない、来られない人にとっても講座やクラブの様子を知ることが出来たり、高齢者向けのスマホの講座があったりと、可能性が広がっていくねという話がありました。

委員長：ではいろんな視点から出ました。強みを話すると、弱いところというか、かつてはこうだったけれど、いまできていないところと言うことも出てくると思いますが、そこも含めて今日出た話を参考に次回の討議内容を検討いただくということでよろしいでしょうか。

委員一同：はい

委員長：改めて、年表とかクラブ協、村田さんの講演や中川さんの話を聞いていると、貝塚のやってきたことの厚みは確かにあると思います。それはすごく誇れることで素晴らしいことだと思う。

けれどもそれがすべての人に伝わっているかというところとやっぱり伝わっていない。公民館を利用している、単なる場所として来やすいから来ている、という人もたくさんいる。

その中で公民館の意義をどう伝えるのかというのは考えていかなければならない。それも今風のやり方が必要で、正面から公民館というのではなく、公民館の良さといわない公民館の良さ、そういう感じのものがないと、なかなか新しい人には伝わっていかないと思うんで、その辺も考えどころかな、と思います。そういうものがうまく出たらいいと思います。そういう事も含めて次回また議論いただこうかなと思います。よろしくお願いします。

## ●案件2「令和5年度第3回審議会の会議録」について

委員長：では、続いて案件2「令和5年度第3回審議会の会議録」について事務局から説明願います。

中央公民館長：前回開催されました令和5年度第3回貝塚市立公民館運営審議会の会議録についてご説明いたします。

事前に送付いたしましたこの審議会の会議録につきまして、ご確認いただきお気づきの点などございましたら、この場でご意見をお願いいたします。

委員長：私の方で、気づいたこと、私の発言で、1つ2つ、誤字脱字というか、スペースの問題だと思うのですが、ちょっとその辺だけ、読んで気づいたことを申し上げます。



す。

3 ページの下から 3 行目の、大会のテーマは「地域の公民館を目指して」の「公」と「の」の間がちょっと空いている、その間スペースが入っているかな、と思います。

同じスペースの問題で、4 ページの下から 4 行目、副委員長の発言で、これも最初の「の」の次、この空白はいらないかなと思います。

私の発言のところで、2 行目、自己有用感という「キーワードで、」となっているのを「でした。」にさせていただけたらと思います。

9 ページの私の発言「山崎亮さんの話は」のところですが、ちょっと言い過ぎているところがあるので、「めちゃくちゃ」はちょっと失礼かなと思いますので、「大変」にさせていただけたらと思います。

その下「デザイナーといいながら・・・」も少し失礼かなと思いますので、「デザイナー・・・」から以下、「感じの人です」まで 3 行を削除しておいて頂けたらと思います。

私も公民館大会にぜひ行きたかったんですけども、風邪で体調不良のため参加できませんでした。また、どんな話だったか聞かせてもらえたらと思います。

他にお気づきのことございませんか？もし何かありましたら、事務局の方に 1 日 2 日のあいだに言ってもらったらと思います。

その他、字句調整というのが出てくるかもわかりませんので、最終的には私（委員長）と事務所の方に一任いただければと思います。異議ございませんでしょうか？

（「異議なし」との声あり）

委員長：では、了解していただいたものとして、整理を必要とする部分については私（委員長）の方で確認いたします。

### ●案件 3 「その他」について

委員長：では、次の案件 3 「その他」についてですが、事務局または委員の皆さまの方で何かございましたらお願いいたします。

中央公民館長：事務局から 1 点ご報告がございます。先ほど委員長からもお話がありました先日 2 月 4 日（日）に貝塚市施行 80 周年、貝塚公民館 70 周年の記念第 12 回公民館大会ということでコスモシアター中ホールにて開催いたしましたので、事務局より報告をさせていただきます。

事務局：公民館大会を 2 月 4 日に開催しました。第 1 部は山崎亮さんのお話という事で、山崎亮さんが活動されるきっかけになったのが泉佐野の公園作りをきっかけとされています。その時に地域の人たちを軸として、公園を活性化させていく過程で地域のコミュニティも出来上がっていくというようなことがございまして、コミュニティデザインというところをライフワークとされています。

その後、地域の人たちと公園づくりとかいろんなことを考えていく活動を通してコ

コミュニティを作っていました。そういうお話を「公民館ができるまちづくり～つながる、関わる、育つ、そして地域へ～」ということでお話しいただきました。非常に熱弁されて、皆さん面白かったという風におっしゃっていただきました。

お昼休みに賄いも出まして、おにぎりや豚汁を実行委員の人たちが協力して参加者のかたにふるまいました。

その後、午後の部ということで12時30分から3時まで、牧野篤さんの方からお話しいただきました。牧野先生は第10回の公民館大会でもお話しいただきまして、一部近畿公民館大会のお話と重なる部分もあったんですけども、先ほども〇〇委員がおっしゃっていたように、昔は地域に散髪屋や図書館が無いから、公民館で散髪屋が髪をセットすることをしたり、公民館でいろいろやったりした時期もありました。

公民館は地域の人困っていることや必要とすることを公民館でやるということが公民館の強みだったというお話もありました。

その中で「恩送り」というのがキーワードで出てきたかと思いますが、いろんな人にいろんなことを公民館でやってもらった。だからその後、自分たちも公民館で何かをしてあげようとか、自分たちで返していくという恩送りが大事になってくるんじゃないか、とようなお話がありました。これも素晴らしいお話だったかなと思います。

先ほどもB班でお話がありましたが約400人の参加があり、それを実行委員の人たちが支え続けてくれたということがありまして、非常に有意義な大会になったのではないかなというふうに思います。

中央公民館長：ちなみに参加者は450人でした。中ホールが500席のホールでそれが満席になって立ち見がでるほどでした。これだけ集まったのは、実行委員もそうですけれども、クラブ協議会とか貝塚子育てネットワークとかそういった方々が熱心に声掛けしていただいたというところが大きかったと思います。公民館だけでなく、一般の市民の方も来られていましたし、市議会議員の方も多数来られて、いい話だったということで、おっしゃっていただきました。

〇〇委員も参加されたと思いますが、感想ありましたらお願いします。

委員：久しぶりに公民館大会へ行かせてもらいましたが、まず実行委員というスタッフさんが生き生きしながらやっておられたのが印象的でした。

見ていてやはり公民館は必要なんやと思いました。そこに関わっている人が「公民館をなくすことは絶対にならん」というという感じでね。来ている人もしっかり先生の話をもっと最初から最後までしっかり聞いているような感じでした。

山崎先生の後、牧野さんの話ね、昔、戦後何もない時代に、公民館の場を貸与していろいろやったことがあったというのをおっしゃっておられました。今に置き換えたら、貝塚も昭和28年からずっとこれから市民は何を必要としているのか、という気持ち、心を持って、それを反映させるっていうことをしていた。

今、周りにはあらゆるものが揃っていてあまり公民館を必要としない。それがこの間のお話でもあったし、堺から泉南でもみな民営化になってしまって、貝塚とあと一つしかないという状況になっている。

これから市民が何を求めているのか、ということを考えて、貝塚公民館で実践すれば、ものすごい良いなと思いました。使う人もね、一般の市民が施設でちょっと運動しようか、となってもお金も高いし、やっぱり使用が限られてくる。そうではなく、貝塚公民館だったら、皆が友達にもなり、良いことも生まれている。

実は僕の友達が公民館で、一緒に知り合って結婚したということもあったみたい。「貝塚の公民館でよかった」と言ってね。そういう上下横隔てなしにという感じが非常に良かったと思います。

初めて公民館大会に参加しましたが。ぜひとも、参加していない人は、先生の話聞いたらい良いと思います。

山崎先生の話で出てきたのは泉佐野の上之郷の話なんです。昔から知っていますが、あそこは一带が森なんです。そこでみんなで公園作って、「良いことされたな」と思いました。そんな事例がいろんな地区であるのではないかな。非常に良かったです。

事務局：講演につきましては今まとめているところなんです、公民館大会の報告集という事で、冊子にする予定で、公民館運営審議会の先生方にもお配りいたしますので、よろしく願いいたします。

事務局：副委員長も参加されていました。何か感想ございますか？

副委員長：先生のお話だけではなく、子育てネットワークの会のおや子、クラブの活動の披露の場もありまして、楽しめるところもありました。生き生きと活動されていることも知りました。

午前の部は地域を巻き込んだ人と人とのつながり作りが面白かったところでした。もったいないなと思ったのが、午前だけで帰られる方がいらっしゃったので、本当に聞いてほしかったのは午後の部だったな、と改めて思いました。それぐらい公民館のことを聞いていただくには、午後まで残っていただきたかったとすごく思いました。

会場を見回すと学生の方もいらっしゃったかなと思って、若いお母さんとか、年配の方とか本当に多世代の方がいらっしゃって、最後の方の会場との掛け合い、実行委員の朝日さんと会場がトークした内容も、すごく身近に感じられた、というか、先生の話の聞くだけじゃない会場の一体感があってすごくよかったなと思いました。

帰りのアンケートを入れるボックスも実行委員の方々がすごく元気に「ありがとうございました」、「お疲れさまでした」と声をかけてくださって、職員さんも出入口で声をかけてくださったのが一日を終えたという感じで帰りました。

委員長：他にありますでしょうか。次回の日程ですね。

事務局：次回の日程ということですが、今、委員さん4人しかいらっしゃいませんし、人事異動の関係もありますので、この場で決めるのは難しいという風に思っております。

来年度につきましては、通常は年4回開催させていただいているんですけれども、

ちょっと審議が多岐にわたると思いますので、1回増やして来年5回で計画したいなという風に思っておりまして、来年度の第1回の審議会をできれば5月あたりで開催できればと思っています。具体的な日程については委員長と相談の上で、皆さんにご連絡させていただくという形を今回はとらせて頂こうと思いますので、よろしくお願いいたします。

委員長：次回は5月目途で、その後5回開催するという予定で、よろしくお願いいたします。

他に委員の方からありますでしょうか？

では以上で、審議会を終わります。皆様、議事運営にご協力いただきありがとうございました。

《閉会》